

OBS Studioなどの配信用アプリケーションで使用するための設定方法

ここに記載した手順は、配信用アプリケーションを起動する前に行ってください。

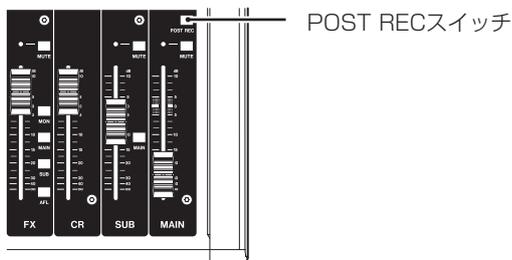
Model 16本体の設定

注意

以下の内容は、Model 16のファームウェアV1.30以降より対応となります。ファームウェアV1.30より前のファームウェアをご使用の場合は、ファームウェアをアップデートしてからご使用ください。

ファームウェアバージョンの確認方法は、取扱説明書「第9章 各種設定および情報表示」の「FIRMWARE画面」をご参照ください。

1. Model 16本体のUSBオーディオモードを「STEREO MIX」に設定します。
設定方法については、後述する新規機能「USBオーディオモード」をご参照ください。
2. 配信する音声にMAINフェーダーを有効にするため、POST RECスイッチを「オン」にします。



- Macの場合は、上記の対応で配信用アプリケーションをご使用いただけます。

パソコンのサウンド設定 (Windows)

パソコンの入出力デバイス、サンプリング周波数、ビットレートおよびチャンネル数を使用する環境に合わせて設定します。

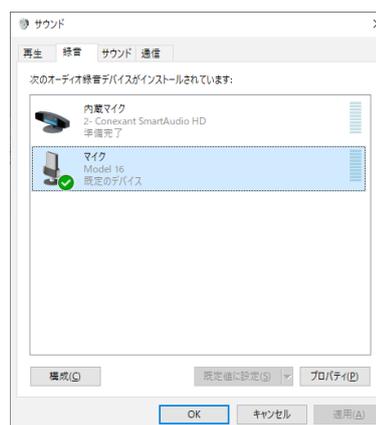
1. 「サウンド」の設定画面を開きます。



メモ

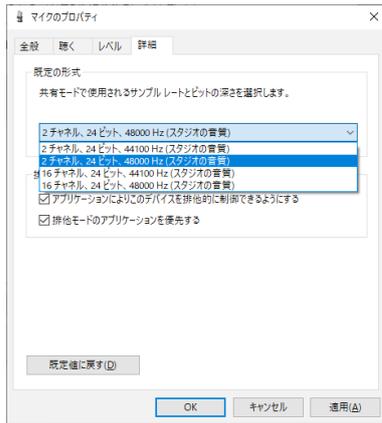
デスクトップ画面の右下のサウンドアイコンを右クリックし、「サウンドの設定を開く」から「サウンド」を開くことも可能です。

2. 出力デバイス項目を「スピーカー Model 16」に設定します。
3. 入力デバイス項目を「マイク (Model 16)」に設定します。
4. 「サウンド コントロール パネル」をクリックし、「サウンド画面」を開きます。
5. 「録音」タブ画面を表示し、「Model 16」を選択します。



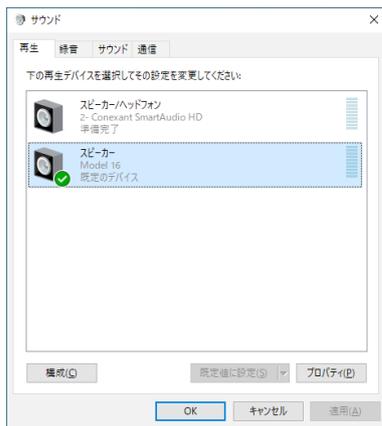
6. 「Model 16」の「プロパティ」をクリックし、「マイクのプロパティ」画面を開きます。

7. 「詳細」タブ画面を表示し、「既定の形式」を設定します。



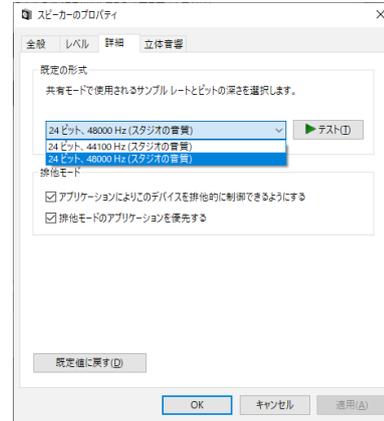
- OBS Studioなどの2チャンネルのオーディオデバイスを対象とするアプリケーションを使用する場合は、2チャンネルの設定を選択します。それ以外の場合は、16チャンネルを選択します。
- サンプルレートは、本機にロードするソングのサンプルレートに合わせてください。ソングをロードしない場合は、いずれのサンプルレートも使用できます。

8. 「再生」タブ画面を表示し、「スピーカー (Model 16)」を選択します。



9. 「スピーカー (Model 16)」の「プロパティ」をクリックし、「スピーカーのプロパティ」画面を開きます。

10. 「詳細」タブ画面を表示し、「既定の形式」を設定します。「再生」タブ画面の「既定の形式」の設定は、「録音」タブ画面で設定したサンプルレートとビットの深さに設定してください。



11. 配信アプリケーションを起動し、配信などを行います。
12. 配信終了後、マルチチャンネルを使用する他のソフトウェアを使用する場合は、設定を「マルチチャンネル」に戻します。
 - 手順1. のUSBオーディオモードの設定を「MULTI INPUT」にします。
 - 手順7. のマイクのプロパティの設定を「16チャンネル」の設定にします。

USBオーディオモード

通話アプリケーションや配信ソフトウェアでMAIN MIX L / Rバスの信号を使用できるように、パソコンに入力する音声を切り換えることができます。

1. レコーダーが停止中に SYSTEM 画面の USB AUDIO 項目を選択し、USB AUDIO 画面を表示します。設定方法については、取扱説明書「第2章 各部の名称と働き」の「メニュー操作の手順」をご参照ください。



2. MULTI JOGダイヤルを回して、USBオーディオモードを設定します。

選択肢	内容
MULTI INPUT (初期値)	チャンネル1-8、9/10-13/14の入力と MAIN MIX L / Rバス出力がUSBのチャンネル1-16に入力されます。
STEREO MIX	MAIN MIX L / Rバス出力がUSBのチャンネル1-2に入力されます。